

「私が話しだすと、聖霊が最初私たちの上に降ったように、彼らの上にも降ったのです。その時、私は、『ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは聖霊によって洗礼を受ける』と言われた主の言葉を思い出しました。こうして、主イエス・キリストを信じた私たちに与えてくださったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったのなら、私のような者が、どうして神のなさることを邪魔することができたでしょうか。」この言葉を聞いて人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ」と言って、神を崇めた。（使徒11：15～18）

エルサレム教会に留まっていた使徒たちやユダヤ人たちは、ペトロの宣教によって、異邦人のコルネリウスたちが神の言葉を受け入れたことを聞き及んだ。ペトロがエルサレム教会に帰って来た時、割礼を受けているユダヤ人たちは「あなたは割礼を受けていない異邦人の所に行き、一緒に食事をした」と非難した。原始エルサレム教会は心と言葉が通じ、持ち物を共有し合い、主イエスの愛に倣う共同体であった。共同体は、ユダヤに在住するユダヤ人と異教で暮らしていたディアスポラ（散らされた）ユダヤ人で構成されていた。彼らは、ユダヤ人の伝統に従い、割礼を受け、異教徒とは食事をしないという考えに固執していた。だから、ペトロが異教徒を訪ね、食事を共にしたことが許せないと詰め寄った。エルサレム教会は愛に溢れていたが、異教徒との交わりは頑強に拒絶していたのである。

ペトロは同信の仲間からの非難を受けて、自分の身に起こったことを順序正しく、丁寧に説明した。ヤッファの町で祈っていると、我を忘れたようになって幻を見た。大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、天から下りて来た。その中を見ると、地上の獣、這うもの、空の鳥などが入っていた。そして、「ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい」と言う声がした。私は「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にすることがありません」と言った。すると、「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない」と、天からの声が返って来た。こういうことが三度あって、全部の物が天に引き上げられた。その時、カイサリアから差し向けられた三人が私の家に来た。すると、霊が『ためらわないで一緒に行きなさい』と言われた。ここにいる6人の兄弟も一緒に、その人の家に行った。彼は、自分の家に天使が立っているのを見、また、その天使から、「ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。あなたと家族の者すべてを救う言葉をあなたに話してくれる」と告げられたと言う。その人の家に入って、私が話しだすと、聖霊が私たちの上に降ったように、彼らの上にも降った。主イエスを信じた私たちに与えてくださったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったのなら、私のようなものが、どうして神のなさることを邪魔することができたでしょうか。主イエスが聖霊によって洗礼を受けると言われた言葉を思い出して、洗礼を受けました。ペトロの報告を聞いて人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ」と言って、キリストの福音は民族の垣根を超えた恵みであることを知り、神を賛美した。ペトロのコルネリウス一家への宣教は、使徒言行録の中で、最も大きなスペースを取って書かれている。著者ルカは、異邦人宣教をしたパウロに敬意を持ち、その働きを克明に伝えている。ルカは、エルサレム教会においても異邦人宣教がなされ、主イエスに対する信仰が世界に広がった最初の出来事として、強調しているのではないか。